

※公募の詳細については、公募機関(AMED)のwebサイトで必ず確認してください。

(H27.12.28現在)

【H28年度日本医療研究開発機構(AMED)研究費】(戦略推進部 がん研究課)

【公募締め切り・事業紹介リンク先】

次世代がん医療創生研究事業	(a) サポート機関: 平成28年2月3日(水) 正午(厳守) (b) 技術支援班、応用研究タイプ: 平成28年2月9日(火) 正午(厳守) ○提出方法: e-Rad http://www.amed.go.jp/koubo/010320151225.html
---------------	--

①公募課題数等

種別	体制	期間	課題数	金額
サポート機関	-	3年度	1	80,000~100,000千円
技術支援班	-	3年度	1	500,000千円程度
標的探索研究 3月下旬に公募予定	ユニット型	2年度	未定(3月下旬決定)	10,000~30,000千円
	若手育成型	2年度	未定(3月下旬決定)	10,000千円程度
応用研究	ユニット型	3年度	35~60	20,000~40,000千円
	チーム型	3年度	3~9	100,000~200,000千円

* ユニット型: 研究開発代表者が必要に応じて研究開発分担者と研究を進めるもの。

* チーム型: 研究開発代表者が複数の研究開発分担者からなる研究チームを編成して研究を進めるもの

②公募課題概要

	研究費(年間) (間接経費を含む)	研究期間	採択件数	公募する研究概要
次世代がん医療創生研究事業				
サポート機関	80,000~100,000千円	3年度(最長6年)	1課題	本事業の推進に当たり、PS・PO等の指示の下、本事業を機動的かつ円滑に運営するために必要な運営事務を行います。 ・研究進捗の整理 ・ゲノム解析データの管理 ・知的財産コンサルテーション ・研究倫理コンサルテーション
技術支援班	500,000千円程度	3年度(最長6年)	1課題	本事業の推進に当たり、PS・PO等の指示の下、各研究開発課題の推進に必要な専門的技術の支援を行います。技術支援班は、分子標的の妥当性検証やケミカルバイオロジー評価、シーズ化合物の最適化・合成展開や薬効評価等の薬剤開発研究の支援を行うことができる技術・手法を有するとともに、DDS開発、遺伝子解析・プロテオーム解析・メタボローム解析等を希望する研究開発課題に対するコンサルティング支援機能を有します。様々な分野のがん研究を俯瞰し、分野横断的に支援する体制が求められます。 ・分子標的候補のPOC取得のための技術支援 ・標的のケミカルバイオロジー評価のための技術支援 ・創薬シーズ化合物の薬効評価のための技術支援 ・最適化・合成展開のための技術支援 ・抗体及び機能阻害ペプチド作製のための技術支援 ・効率的がん治療薬の薬物動態・DDS開発支援プラットフォーム ・単一細胞・オルガノイドの調製及び各種解析のための技術支援
応用研究タイプ				
研究領域A がんの発症・進展に関わる代謝産物やタンパク質相互作用に着目した新規治療法の研究(治療ターゲット)	公募なし	-	-	(チーム型) -
	20,000~40,000千円	3年度(最長6年)	(ア)~(カ)合計で10~15課題程度	(ユニット型) 以下の研究テーマに関連する具体的なシーズを既に有しており、阻害剤等の同定を含む広い意味でのターゲット・バリデーションを行い、研究期間中に企業導出や非臨床試験へ展開できるレベルまで開発を行う研究を対象とします。 (ア)がんの代謝特性を標的とした治療法の開発 (イ)がん関連タンパク質の相互作用・転写後調節・翻訳後修飾を標的とした治療法の開発 (ウ)がんの分化異常を標的とした革新的治療法の開発 (エ)細胞周期及び染色体構造を標的とした治療法の開発 (オ)がんの細胞死誘導機構を利用した革新的治療法の開発 (カ)支持療法の開発を目指した腫瘍随伴症候群の原因の解明と治療法の開発

研究領域B がん生物学と異分野先端技術の融合による新規創薬システムの構築とそれによるがん根治療法の研究(異分野融合創薬システム)	100,000~200,000千円	3年度(最長6年)	(ア)、(イ)合計で1~3課題程度	(チーム型) (ア)DDS や放射線治療等を含めた先端的創薬技術開発を応用した治療法の開発 (イ)異分野先端技術融合による画期的薬効評価システムの構築による治療法の開発
	20,000~40,000千円	3年度(最長6年)	(ウ)~(オ)合計で5~10課題程度	(ユニット型) 本研究領域の応用研究では、以下の研究テーマに関連する具体的なシーズを既に有しており、異分野先端技術との融合により新規創薬システムを構築する研究開発課題を募集します。 (ウ)がん微小環境のネットワーク撃滅を実現する標的分子群の同定に基づく治療法の開発 (エ)がん間質との相互作用等におけるタンパク質相互作用を標的とした治療法の開発 (オ)残存病変、転移・再発巣を制御する治療法の開発
研究領域C 体内のがん細胞を取り巻く環境制御と免疫応答効率化への革新的・基盤的治療法の研究(免疫機能制御)	100,000~200,000千円	3年度(最長6年)	1~3 課題程度	(チーム型) (ア)がん細胞の遺伝子変異情報とがん組織の免疫環境情報を利用した患者個人の免疫反応に基づく効果予測診断法の確立
	20,000~40,000千円	3年度(最長6年)	(イ)~(エ)合計で5~10課題程度	(ユニット型) (イ)効率的なネオアンチゲンスクリーニング法の開発 (ウ)がん細胞と周辺組織の免疫環境解析を基軸とした特異的標的分子群の研究 (エ)免疫抑制の制御法や免疫賦活因子の探索とそれを標的とする治療法の開発
研究領域D 患者に優しい高感度・高精度ながん診断法の研究(診断/バイオマーカー)	公募なし	-	-	(チーム型) -
	20,000~40,000千円	3年度(最長6年)	(ア)~(エ)合計で10~15課題程度	(ユニット型) (ア)がんの易罹患性・早期診断バイオマーカーの開発 (イ)抗がん剤等の副作用又は効果予測診断法の開発 (ウ)血中循環腫瘍細胞の捕捉と解析によるがん診断法の開発 (エ)がんの分子病態解明と分子イメージング技術を融合したがん診断法の開発
研究領域E がん細胞の不均一性等に対応した難治性がんの治療法の研究(がん多様性)	100,000~200,000千円	3年度(最長6年)	(ア)、(イ)合計で1~3課題程度	(ア)がん細胞ゲノム、エピゲノムに蓄積する変異の不均一性の研究 (イ)家族性がんの原因・発症機構の研究
	20,000~40,000千円	3年度(最長6年)	(ウ)~(カ)合計で5~10課題程度	(ユニット型) (ウ)がん細胞の特性理解に基づく新たながん克服法の開発 (エ)がん細胞と微小環境の相互作用の解明に基づく新たな治療標的の研究 (オ)がん細胞の不均一性等に対応した転移・再発・治療抵抗性がんの治療標的の研究 (カ)腫瘍内不均一性を生み出すがんの進化原理についての研究